
『命日』

脚本・演出 司田由幸

2025年 2月13日～16日

@ SOOO dramatic!

光、車、ショーウィンドウ、
わたしを混乱させるすべての道

行き過ぎてゆく人たちの中にいて

わたしは 悲しい

でも 泣きたい気持ちよりも

あなたに また会える懐かしさの方が大きい

顔に照る この太陽は

希望のしるしだ

わたしが待っている

あなたが突然遠くからやってくる

愛しい人よ 急いで

あなたが現れないなら

わたしは存在しない

永遠に存在はしない

存在していない

オルネラ・ヴァノーニ『約束』より

【登場するものたち】

・Q::生きて問う者

(幼馴染 / 飼い主 / 人間 / 友人)

.....

河合祐三子
平島茜

・A::なくなつて応えるもの

(少年 / 動物 / 白百合 / 友人)

.....

大橋弘枝
本多麻紀

・いま生きてここに集まつた者たち

・いまは生きていないすべてのものたち

【S1…入り口】

駅を降りて 路地を数分行くと
現代の公民館たることを
願われた場所がある

外と内の境がなく
隔てるものは 揺れるカーテン1枚だけ
風も光も音も 自由に通る

人も たくさん出入りしている
みんな 服装が 黒い

ぎっしりと椅子が並んでいるが
前方に空いたスペースがあり

2台のベッドが

鏡に写ったかのように
対照的に置かれている

ベッド と ベッド
その間には ゴーストライト

ここには

舞台と客席
此岸と彼岸
あちらとこちら
吾と汝
その境もない

と、ひとりの男が おもむろに前に出て来て

本日は、たくさんの方にお集まりいただき、大変うれしく思っております。
脚本家・演出家の司田由幸です。

男がこれからの数十分に関する注意事項などを
手話通訳を交えて語る

事前にもご案内させていただきましたが、お手元にお配りしている用紙にですね、もし差し支えがなかったら、すでに亡くなられた方との想い出をお書きいただけると幸いです。大切な方でも、別に仲良かったわけではない人のことでもいいですし、どなたとのことでも構いません。

故人が生前よくしていた仕草だったり、癖、エピソードだったり、今でもよく覚えていることがありましたら、ご記入の上、あちらの箱の中に入れてください。後ほど、いくつかご紹介させていただく時間を取ればと思っております。

どんな風に書いたらいいかわからないよー、という方のために、

例えば、僕のことと言うと、ええと、いきなり人間じゃなくて大変恐縮なのですが、うちの亡くなった先代のワンコは、チワワですが、散歩した後とかに、こう抱っこして歩いていると、こうやって、（水かきの動作）自分で歩いてるつもりだったんですね、宙で水かきをするように手足を動かしていました。

こんな感じで、何気ない動作とか仕草のこと、色々と教えてください。

いつの間にか 4人の者 現れる

仕草とか以外の、取りとめないエピソードでも大丈夫です。

例えばですね…、数年前、僕の叔母が癌で亡くなったんですが、ちょうどその訃報が届いた時、僕は地下の劇場にしまして、電波が届かなかったんです。それで、知り合いの舞台を見終わって、地下からの階段を上がって外に出たら、目の前にもすごい夕日が、そこそ雲も空も真っ赤に燃える上がるような夕焼け空で、そしたらスマホが鳴って、叔母が亡くなったって…。

いまでも夕焼けを見ると、時おり、叔母を思い出すことがあります。すいません。たくさん話すぎました。

さて、

ベッドに座っている4人

片側に 黒いパジャマの者 ふたり

もう片側に 白いパジャマの者 ふたり

白い者は 手に子どもの靴

そして野球ボールなんかを持っている

これから語ってもらうのは、僕の人生で一番最初に出会った、死者です。

小学生の頃の遊び友達だった子で、彼は、近所の公園で遊んでいて、自転車で転び、頭を打ち、その日はそのまま家に帰ったのですが、翌朝、目覚めた時にはすでに亡くなっていました。

僕は8歳で、その子は6、

客電が 断裂するように 消える

歳。

【S2…公園】

男、上手と下手にそれぞれ1台ずつ設置された　めくりを

1枚　1枚と　捲めくる

そこには　少　年　とある

いま、どんな気持ちですか？

え？　うれしい！　すごく。久しぶりに、この身体になれたから。なつかしい！

靴は駆け
ボールは弾む

あの頃のままなんだね？

そうか、そんな風に見えるんだ。

ごめんね。何年も思い出すこともしないで。

ううん。いつとか、カンケーないから。

おかげで、こうしていられるから。

そうなんだ。

*

あの日。

私はまだ空が暗いうちに親に起こされて、

「学校行く前に、最後は、顔見に行こうね」って言われて、

いまじゃ夢の中みたいに、ぼんやりと薄暗い中をキミの家まで車に乗って…。

キミの家の中はレースのカーテン越しに朝日が差していて、青くて、

あんなに身体の大きかったお父さんが…（先が続けられない）

うん。見てたもん。隣にいた、お母さんのことも。

（うなずくだけ。うなずくだけ）

*

Q

Q

A

Q

Q

A

Q

A

Q

A

Q

ごめんね。
痛かったよね？　何もしてあげられなくて…ごめんね。

だいじょうぶー。もう忘れちゃったし。

(え?)

だって、一瞬だったもん。パンツ(手を打つ)って。

…。

あの日までが6年でしょ? あの日から30年以上?

あの瞬間は、たった、これだけ。

だから、もう忘れちゃった。

この前いつ転んだかなんて、覚えてないでしょ?

先週、駅の階段で転びました。

子どもが笑う

よく転んで泣いてたもんね。

そうだった?

うん。あの公園で遊んで、我慢できなくておしっこもらしちゃって、お母さんにバレたら怒られるって泣いてた。

ちよつと!

水道でジャバジャバ洗って、「走って乾かす!」って、そのまま鬼ごっこした。

鬼ごっこしたのは、なんとなく覚えてるかな。

秘密基地つくったり、プールの帰り道、あそこでみんなでアイス食べたりしたね。

うん。

でも、もう顔は覚えてないんだね。

うなずくだけ

声も。

…ごめん。ひどいね。ごめんね。

ううん。死んでなくても忘れちゃうもん。

でもじゃあ、何を思い出してるんだろう。声だって、話したことだって、何が好きだったかだって思い出せないとしたら、私、キミの何を思い出してるんだろう?